

個人気象局

JJ1SXA 池

最近急激に増えている個人気象局、アマチュア無線家も例に漏れずで、世界中のハムがどんどん開設の方向の様相です。

拍車をかけているのが、APRS か？、私も 4 月から APRS に取り組みましたが、本当のところは、個人気象局に興味があり、いつかはと密かに目論んでいたのですが、どんどんメジャーな状況に移り、既に乗り遅れの感があります。

機材の調達をしなければ始まりませんが、私には高価、それだけの投資をこちらにするよりも他に欲しい物が多すぎて迷っている状況です。

気象観測装置(風向風速計、雨量計、気圧計、温度計・湿度計等)の設置方法については、「地上気象観測法」とか「世界気象機関技術規則」等で細かく決められているようです。

気象観測装置の内、温度計・湿度計の基本的な設置場所についてみると、……『建物や木などの日陰にならないところを選び芝草を植え、芝草は時々刈り込み雑草を取り除き、周囲はできるだけ広い面積(約 600 平方メートル以上)が必要で、草地が広がっていることが望ましく、「百葉箱」に取り付ける場合は、気温や湿度の測器を、風雨などから保護し、日射や放射から遮蔽するためのものであるから、通気性を考慮した四方が鎧戸式で檜材で作られ白色ペンキで塗装、脚部は木製で地上約 1m とし、地中に埋めて固定するが測器の高さを地上気象観測法では、地表面上 1.5m 前後、世界気象機関技術規則では 1.25～2.0m の高さになることを基準とする、ただし、多雪地では積雪の深さに応じて脚部を高くすること、扉は開いたときに日射が直接あたらないように正面を北向きにし、その中の測器は、北側に面して左に湿度計、右に温度計を配置する』……ガーン！！、これでは、猫の額ほどの我が家では所詮無理では無いか、大ショックでしたが、色々調べると、現在は、温度・湿度センサーを内部に設置してシールドした特殊ケース(百葉箱)が製造・販売されていて、手軽に設置が可能のようで、このタイプは風向・風力計、雨量計がセットになっているのが一般的、当然モニターユニットがついていてケーブル式の他無線でデータを読み取るものもあるようです。

個人気象局だから、ある部分ではおおまかで良いとも言えるのですが、その情報を、モニターユニットから PC に取り込み、APRS や自身のホームページで外部に公表となれば、できるだけ正確を期さなければいけませんし、気象学の基礎知識も必要です…とは言え気象予報士の資格を取るわけでは無いのでそんなに大袈裟に考えることも無いでしょうが、最低限、気象用語の意味を理解し、普段目にする等高度面・地上実況天気図の読み書きくらいはできないといけないだろうということで、機材購入の予算ができるまでに勉強だけでもすぐに手がけようと思うものも、考えているだけでまだ始めていません、何時になることか？

(2007 年 9 月末)